

二俣川ニュータウン地区

きらっとあさひプラン
第3期 旭区地域福祉保健計画
平成28年度～32年度

二俣川ニュータウン地区は、区中西部に位置し、県運転免許試験場と保土ヶ谷バイパスにはさまれた丘陵部を開発して生まれたニュータウンと、その周辺の地区からなります。開発から約50年になります。現在、11町内会・4000世帯、その9割を戸建て住宅が占めています。高齢化率は区内4位と高齢化が進んでいる地域です。



■めざす地区の姿

住んでよかったと思える街

～音楽が響き スポーツが盛んなまち みんなのふるさとニュータウン～

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

■目標A

まちの魅力を伝える地域の情報共有

～「きょう用」がある「きょう行く」ところがある 生きがいのある街へ～

■具体的な取組

○A-1 まちの情報をつないで「見える化」する

- ・二期計画期間に作成した介護予防等地域活動一覧、マップをベースに「まちの魅力を伝える冊子」を作成・配布します。
- ・地域の広報に掲載する情報を充実させ、活用を図ります。「まちの魅力を伝える冊子」や「地域の広報誌」から「今日用事」、「今日行くところ」を見つけて、生きがいのある街をめざします。

○A-2 誰でも参加できる公園での「ラジオ体操」の展開

公園でのラジオ体操をだれでも参加できる活動と位置づけ、開始する。顔みしりをつくり、老人会参加も促します。

○A-3 外出ボランティアの育成

既存ボランティア団体と連携を密にし、活動の土台をつくります。



コーラス「コスモス」



グラウンドゴルフ



金が谷公園のラジオ体操

■目標B

「ふるさと」を育む 幅広い区民参加の仕掛けづくり

■具体的な取組

○B-1 中高大学生が地域行事に主体的に参加できる仕組みづくり

夏祭り、運動会、音楽祭、敬老会、福祉まつり等様々な行事で地域と学校が連携し、中高大学生が行事の一部を担い、思いやりの心をはぐくむとともに、自分が役に立っている、必要とされているという気持ちを得る機会を作ります。

○B-2 行事の担い手・後継者を育てる

- ・町内会や各種委員、学校PTA 関係などの地域活動の経験ある方に呼びかけて、できるときに、できる範囲で、できることに手を挙げていただけるよう呼びかける仕組みを作ります。
- ・レクリエーション部（仮称）をつくり、地域住民へ参加を呼びかける仕組みを作ります。

○B-3 音楽が響き、スポーツが盛んな街づくり

地区内にはいくつも合唱団があり、小中学校の音楽活動が盛んです。多くの方が「聴く、歌う、奏でる」に参加する、響き合う街をつくります。

スポーツは体を健康にし、心は爽快で、そして笑顔をもたらします。ご近所のできる軽スポーツやレクリエーションを増やします。

年間を通じ様々な行事が展開されています



6月 福祉まつり

地域住民の献品によるバザーをはじめ各種団体の模擬店・三世代輪投げ・地場野菜の即売・工作教室など様々な催しが展開されています



8月 夏まつり

各町内会の神輿・山車の練り歩きを皮切りに各種団体による20の出店・盆踊り・大抽選会などなど二日間にわたりにぎやかに開催されます



10月 敬老のつどい

中沢小学校の合唱・旭中学校吹奏楽、国大民謡研究会による歌と演奏と踊りのパフォーマンスなどにより多くの元気をもらいます



10月 大運動会

未就学児から高齢者まで2千人が参加し町内対抗をはじめ17種目の競技が繰り広げられます



11月 マラソン大会

小学生から成人シニアまで200人を越えるランナーが参加し1周2キロのコースで健脚を競います



1月 音楽祭

富士見学園大講堂で開催され地区内の多くのコーラスグループによる合唱をはじめ、様々な演奏が奏でられます



1月 もちつき大会

80キロの餅をつき、あんこ・きなこ・大根おろしなどのくるみ餅に加え、防災拠点による豚汁もあります

■目標C

街の防災 自助・共助意識の向上と実践

～高齢化の下で災害時への備えを万全とし、安全で心の不安がない街づくり～

■具体的な取組

○C-1 自助意識の向上と実践【NT 防災連絡協議会】

防災訓練等を通じて、地震発生時のシェイクアウト行動（DROP 姿勢を低く屈む・COVER 机の下に潜る・HOLD ON 収まるまで動かない）の普及を図ると共に、住宅の耐震調査・耐震工事の実施、家具の転倒防止工事の実施、飲料水・食料品等の備蓄など自助意識の向上と実践に向け啓発を進めます。

シェイクアウト行動



○C-2 共助意識の向上と実践【NT 防災連絡協議会】

発災時の「黄色い旗掲示行動」「ご近所集合場所の整備」「安否確認の実施」などを防災訓練時に引き続き取り組むと共に、夜間の発災を想定した防災訓練を実施します。防災拠点でのペットへの対応策を検討します。災害ボランティアの育成と消防団組織づくりに取組めます。地域内へ消火栓を利用したスタンドパイプ（機材）を整備します。

「支え合いカード」を進展させ、支え、支えられる互助体制を構築します。



スタンドパイプと放水訓練



■目標D

見守り体制の充実と地域交流の場の拡充

■具体的な取組

○D-1 日常のみまもり活動をより充実に

散歩やゴミ出し等日常生活の中で登下校時の児童や高齢者等を地域で見守っていきます。民生委員や友愛活動推進員を中心にお困りの世帯など必要に応じて訪問対応をします。地域内のパトロールも防犯と共に子どもの見守りも行います。

○D-2 空き家を利用した地域交流サロン

持ち主のご協力の元、地域を中心に運営します。地域で活動しているボランティア団体等にも協力してもらい、誰もが立ち寄りやすいサロンを実施します。地域交流と共に、貸室の提供や今宿地域ケアプラザよる介護等の身近な相談活動も行います。



子育て「わいわいクラブ」



ミニディサービス「あかり」



サロン「あさひ」

ニュータウンコラム ～「並木愛護会」の設立と落葉清掃の実施～

ニュータウン通りに植栽された銀杏やトウカエデは大量の落葉を発生し、高齢化の進展の中で、沿道住民の大きな負担となっていました。

そこで、これらを支援するため「並木愛護会」を設立しました。サポーターを募集し、落葉の期間中週3回合計13回の清掃活動を実施しています。現在の登録サポーターは115名となっています。また、小・中学生の参加をえて、清掃大会（26年度は中学生52名が参加）・落葉アート（26年度は小学生38名が参加）を開催し、世代間交流の成果もあげています。引続き、事業を実施することが必要であります。財政面での課題があります。



ニュータウン通りの
黄葉の銀杏並木と
中学生も参加の清掃活動



落葉アート制作風景



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上、特に70歳から80歳の層の比率が団塊世代の層よりも高くなっている一方で、20歳から39歳の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約200人減少しています。高齢化率は4.5%増の35.9%で旭区平均より高くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で約100戸増加しています。また、世帯人員は減少傾向にあります。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約10100人、2025年で約9600人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約37.2%、2025年で約38.2%になり、75歳以上人口が減少に転じるため2030年以降の伸び率はほぼ横ばいになると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

① 「緊急時・救急キット」(健康カード)の整備

緊急時への対応や救急搬送などを迅速に行うため必要な情報(かかりつけ病院・持病の有無・薬の服用状況・連絡先など)をカードに記入しキットに入れ、各家庭の冷蔵庫に常備することを目的に、地区内の全世帯を対象に実施し、2町内会での全世帯整備をはじめ、全体では世帯加入率67%の整備を行うことができました。今後の課題としては健康カードの定期的な更新や未整備世帯への働きかけが必要です。

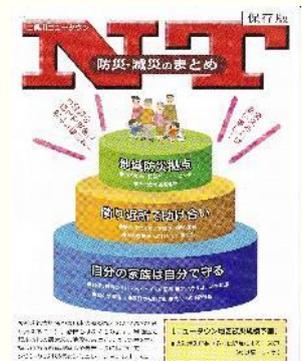
健康カード・カプセル



② 街の防災を見直すとともに、防災意識の向上をめざす

「防災懇話会」の開催、全世帯を対象とした「防災意識アンケート」の実施などにより、地域の防災課題を洗いなおすとともに、その課題解決に向け「防災連絡協議会」が組織され、「防災パンフレット」の作成・全世帯への配布、「災害時支えあいカード」の点検と再募集をはじめ、発災時の「黄色い旗掲示行動」「ご近所集合場所の整備」「安否確認の実施」などを防災訓練時に取組み・実施した。また、地域内へ消火栓を利用したスタンドパイプ(機材)を試験的に1セット整備しました。引き続き、地域住民の防災意識の向上を図るとともに地域の防災を共有し、自助・共助の実践・取組みが必要です。

防災パンフレット



③ ニュータウン通り「並木愛護会」の設立と落葉清掃の実施

ニュータウン通りに植栽された大量の落葉を発生する銀杏やトウカエデの落葉清掃を「並木愛護会」を設立し、高齢化により清掃が負担となっている沿道住民を支援しました。(ニュータウンコラム参照)

④ その他

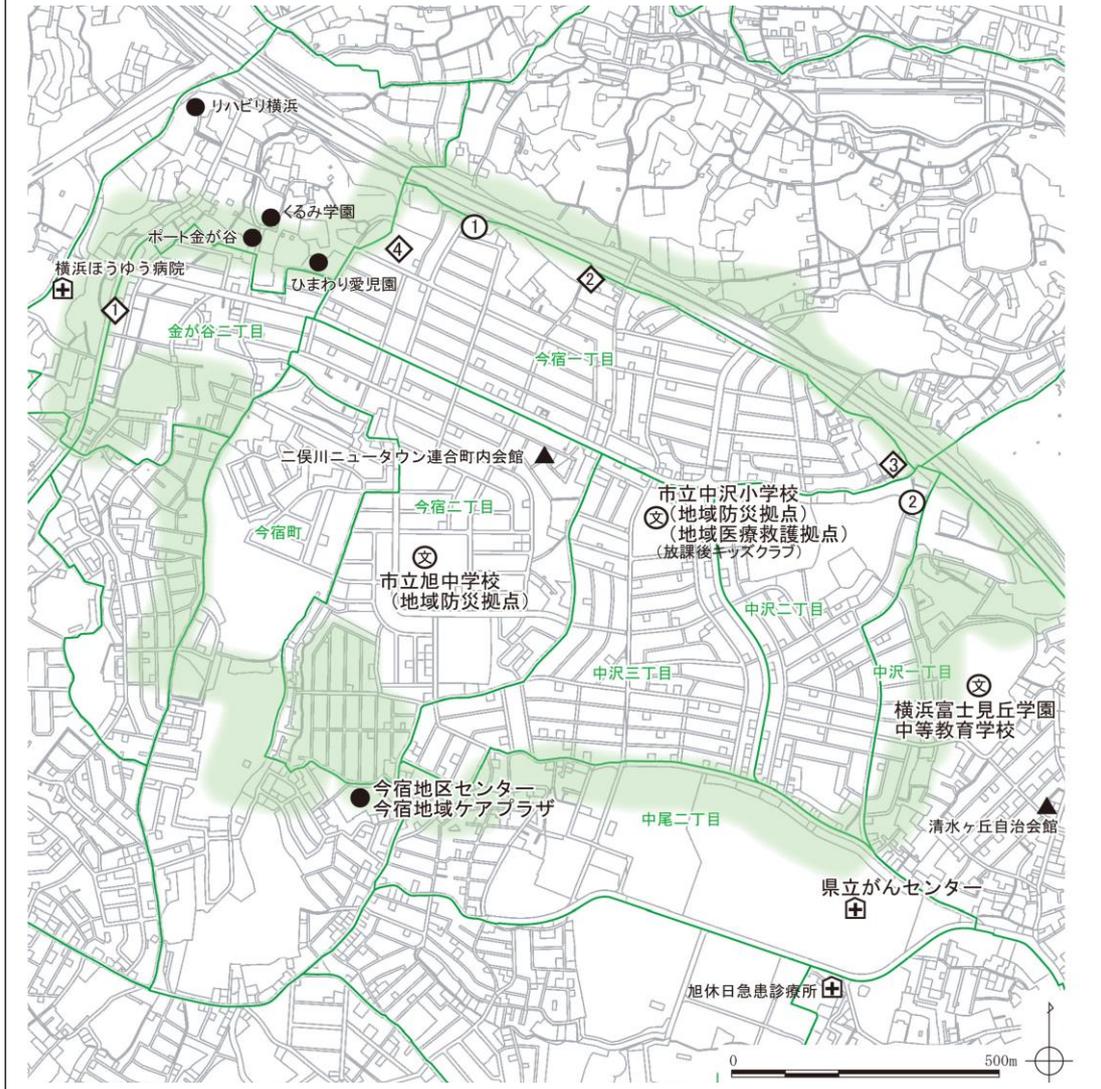
地域内の介護予防活動を把握するために、介護予防等地域活動一覧と活動場所を地図上に記したマップを作成しました。これにより、様々な地域活動の全体像を把握できたので、活用方法を検討していきます。

■ 地区の福祉課題

- ・地元で健康寿命を長くしたいが、新しい活動はとりまとめる人が大変で担い手がない
- ・老人会の加入率が低い
- ・介護予防等地域活動一覧の活用と広報を充実させていくこと
- ・日常の見守りの充実が必要
- ・子育て支援活動の拡充、整備、担い手の確保
- ・子育て世代がもっと地域へ目をむけてくれるようになること
- ・中高大学生ボランティア活動を活発にしていくこと
- ・地域行事を継続していくための後継者、担い手を確保すること
- ・常設サロンの開設・外出ボランティアの育成
- ・自助、共助の取組から防災意識の向上をめざしていくこと



■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

家庭的保育事業

- ① 瀬戸保育室

幼稚園

- ② しみずがおか幼稚園

高齢者

小規模多機能居宅介護

- ① アルメリア

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ② みんなの家 横浜今宿

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

- ③ 今宿ホーム

- ④ 陽光苑